

1 学期終業式校長講話

令和3年7月26日

みなさんこんにちは。4月から新年度が始まって、今日までで1学期が終わります。

みなさんは、この4月から7月までを振り返ってみて、どのような感想を持っているでしょうか。

特に1年生は中学校と違い、通学に時間がかかる、授業は難しくなる、給食がない、細かく指図されることがない、など身の回りの環境の大きな変化にも慣れて、自分のペースをもつと同時に高校生として責任ある行動ができたでしょうか。

さて、23日より東京オリンピックが開催され、無観客という異例な状況の中にもありながらも、水泳の池江選手や大橋選手、柔道の高藤選手や阿部兄弟、スケートボードの堀米選手、卓球やソフトボールなど、日本人選手の感動的な活躍が続き、テレビから目が離せないこの土日でしたね。同時に新型コロナウイルスの感染状況も、人の流れが活発化するに伴い、東京都を中心に感染拡大が続き、長野県の状況も含め今後の予想が付きません。ですから、なるべく感染リスクを減らし日常生活を送ることが最も大切です。特に夏休み中は、繁華街で大勢での飲食など、人の集まりやすい密な場所へ行くことは極力避け、マスク、手指消毒を徹底することが必要です。幸い豊かな自然に囲まれて生活している私たちは、一步郊外に出れば密になりようがありません。アウトドアスポーツや散歩でも、手軽に楽しめ心身をリフレッシュできる環境があります。

長野県には、そのような環境に魅力を感じ、大勢の方が移り住まわれています。「信濃毎日新聞」では、この時期そのような信州に縁のある方々のお話を「山ろく清談」というコーナーで第一面に特集しています。昨日は、俳優の渡辺謙さんのお話でした。渡辺さんは現在日本を代表する映画俳優として、「ラストサムライ」などのハリウッド映画にも出演し、国際的にも高い評価を得ている方です。しかし、20代の時NHK大河ドラマ「独眼竜政宗」に大抜擢されたころ、主演で伊達政宗のような大役を自分が長丁場のスタジオ撮影で演じられるか自信がなく、悩んでいたそうです。その時に、以前共演した先輩俳優から言われた言葉が、『誰でもいいから会った人に笑顔で「おはようございます」って言い続けたら何とかなる』だったそうです。半信半疑で実践すると、掃除のおばちゃんら周囲のみんなが応援してくれるようになり、長丁場の撮影も乗り超えていくことができ、あのNHK大河ドラマ史上トップの視聴率を誇る名作が生まれたそうです。毎回同じことをお話ししますが、今まで私は蓼科高校を良い学校にしましょう、そのためには皆さん一人一人の心がけ次第で、例えば、挨拶をする、自主トレーニングをする、目についたごみを拾う、など毎日一つでいいから、実践してみましようと話しています。その話と同じだと思います。その積み重ねが大きな成果を生みます。自分の目標の達成や夢の実現につながります。同時に自分の学校に誇りがもてるようになります。

最後にこれからのことを話します。特に2年生は、これからポプラ祭、オープンキャンパスへの参加、修学旅行、生徒会役員選挙、進路選択、など高校生活で重要な節目がいくつもあります。3年生は生徒会の仕上げと、進路決定への実践一筋です。就職は一般教養を身に付ける、企業の選定、志望理由書、応募前職場体験、出願準備、進学は、受験学力をつけるための勉強、推薦制度を使っていく人は志望理由書、あるいは進路につながる体験・課題解決学習などの受験準備があります。

みなさんがそれぞれの目標に沿って、全力で当たってほしい。皆さんはその努力の積み重ねとなれるような夏休みを送ってください。

終わります。